

# 第15回ちばてっく会報

## Chiba Teaching English to Children

ちばてっくは児童英語教育をみんなで考え、意見交換を行い、研鑽していく会です。

簡単にはありますが、第15回目のちばてっくのご報告をさせていただきます。

(1) 『Team Teaching を成功させるために HRT と ALT ができること ～聞きたいこと、伝えたいことを大切にする子ども達の育成を目指して～』

Rhys John Moses 先生、佐々木祐子先生

TT で授業をするときに重要なことは、All English で授業をするということです。英語で説明することで、子どもたちが日本語を頼りにせず、先生が話していることを一生懸命聴こうとする姿勢と英語を話したいという意欲や話せたときの自信ができ、より一層授業の充実が図れます。そのためにも、年度始めの計画を立てることや打ち合わせは学年ごとに必ず行っています。また、クラスルーム・イングリッシュでは、できるだけ簡単な説明と指示を多用することで自然な理解を努めさせるようにしています。



ALT の役割で気をつけることは3つあると Moses 先生は教えて下さいました。1つ目は、英語でたくさん話してあげること、2つ目は、文化の違いに気をつけること、3つ目は、英語の見本を提示することです。英語を多用することで、イントネーションの学習にもつながりやすくしているそうです。

一方、HRT の役割で気をつけることは4つあります。1つ目は、子どもの支援をすることです。2つ目は、子どもたちの見本となることです。3つ目は、授業の統制をとることです。4つ目は、子どもの実態を見極めることです。子どもたちなら、この活動をしたら、「きっとこう思う」というように子どもたちの立場に立って授業を考えることが重要です。

上記を踏まえてさらに、TT を成功させるポイントにも言及して下さいました。具体的には、子どもたちが聞いているときは、ALT は、クラス全体をみて分かりやすく説明します。HRT は、机間指導や ALT が発したことで、分からない子どもにつぶやいてあげるなど子どもの補助役をします。また、ART は、クラス全体の様子をみながら、英語表現や発音、イントネーションをチェックします。HRT は、ART が話していることに子どもたちの注目をさせることや行儀良く聴くようにさせます。さらに、ART は、できるだけ子どもたちの中に入って、褒めることや子どもたちひとりひとりの活動が当たっているかチェックします。HRT は、活動をよくしているかどうかや英語を話すことに自信がない子どもの支援をしています。

また、板書計画では、学校全体として英語の文字に積極的に触れさせています。同じような板書のパターンや流れをつくることで抵抗感を軽減させていることも特徴です。

そして、振り返りカードを活用することで、ART と HRT が省察したときに子どもたちが新しいことを身につけた嬉しさとお互いの意見や考えに共感して活動を行なっていることを実感できる良

さがあります。感想からどの活動や内容が良いのか、子どもたちに合った指導を模索できるので、振り返りカードの活用は有意義で、効果的であるといえます。

そして、最後に子どもたちが「聞きたい、話したい」と思う授業づくり、つまり、「子どもたちに寄り添って」授業を一緒につくっていく姿勢が英語の授業を成功させる要素になるということを感じました。

## (2) 『教科としての小学校英語の実践例』

湘南白百合学園 Paul Inker 先生

湘南白百合学園の英語教諭として働く Paul Inker 先生からは、教科としての小学校英語について活動の実践例と共に、ご講義いただきました。

湘南白百合学園では、2014年3月までは3年生からだった英語の授業を、4月から1年生からにし、週1回の英語の授業を日本人英語教諭とネイティブ英語教諭とのTTを行っています。

### ○小学校英語と活動○

小学校英語では、楽しい要素と勉強の要素の二つを考える必要があります。4技能の面では、低学年では聞く・話す为中心となり、高学年になるにつれて読む・書くが入ります。また、同じ学習内容の活動においても学年に応じてレベルを上げることができます。

英語の授業で大切なものは、自信です。しかし、生徒の多くは自信がないので、英語を話すことに躊躇する。その解決策の一つがペア・グループワークであり、取り入れることで他にもメリットがあります。①クラスルーム管理がしやすくなる。②コミュニケーション能力の育成につながる。③英語を話す時間を増やすことができる。の三つがあげられますが、活動がただの遊びで終わらないように、前にでてクラスの前で発表をする時間を設けます。そこでの生徒の経験を自信につなげる目的もあります。ハンドアウトにも工夫がしてあり、時には図に書き込むもの、絵をかくもの、活動に合わせたハンドアウトを作っています。

### ○小中連携○

最後に、小中連携のために、白百合学園では授業のふりかえりのためのプリント等での読み・書きを導入しています。それは、文法にも注目したもので、中学での英語の授業を意識したものとなっています。また、頭を使うもの、遊びの要素もありながらの文字・単語の綴りに焦点をあてた活動など、中学校と小学校の英語の授業の差に戸惑わないように工夫がなされています。



### (3) 「ちばてっく 10年の歩みを児童英語教育の未来につなげて」

あぜりあ language school 勝山 ひとみ先生

勝山先生からは、今までの小学校英語の変化に伴ったちばてっくの歴史や歩み、目的などを中心にお話頂きました。ちばてっくの始まりは10年前で当時の勝山先生は西垣先生（千葉大学）の下で大学院生だったそうです。60名以上の小学校の教員方に向けたセミナーでの「小学校英語が始まったが、現場は混乱している。」という意見から、この様な先生を助けたいという思いがきっかけでちばてっくは始まりました。

小学校英語の歴史として、1986年に小学校段階での英語教育を行うことを検討することから始まり、2002年には、総合的な学習の中の国際理解教育の一貫として、英語教育が実施可能になりました。その後、2004年にちばてっくが始まりました。その後、少しずつ活動回数を増やし、第5回目（2006）の時には、中央教育審議会が週に1コマ程度の教育内容を設定することを検討する必要があると発表し、第12回目（2011）では、全国の公立小学校にて、小学校第5・6学年の外国語教育として必修化されるなど小学校教育も大きく変化致しました。

第1回目のちばてっくでは、現場で役に立つ情報などの共有などを中心に「小学校英語の今後へのレクチャー」、「現場での役立つ情報共有」、「意見の交換」の3本柱でのスタートでのスタートとなりました。

第2回目以降の各回このテーマに沿った先生方からのレクチャーや議論を行ったことを歴史とともに勝山先生にご紹介頂きました。また、勝山先生は外国（アジア諸国）の小学校英語の開始年齢の早さや英語嫌いが小学校から中学校にうつっているという話から、今後の英語教育への提言をして下さりました。そして、英語嫌いを減らし、英語教育に自信がもてない教員のためにこそ、ちばてっくは情報の共有を共にし、これからも多くの人と一緒に考えていくということを通して、英語を使える人材の育成に貢献したいとの思いを強く感じる事ができました。



### (4) 「言語習得と脳科学の関わり」

愛知教育大学 建内 高昭先生

英語教育を専門学とされている愛知教育大学の建内高昭先生よりご講演がありました。先生の現在のテーマはリスニング研究、第二言語習得と脳科学研究、教員養成、授業研究などがあり、今回は「言語習得と脳科学の関わり」というタイトルのもとでお話をしてくださりました。ご講演は1. リスニング研究へのきっかけ、2. リスニングにおける能動性、3. 聞くことのプロセスとは、4. 脳科学から捉える言語学の4点で行われました。



リスニングの能動性とはあいまいな意味を能動的に捉えることで、具体的な例として赤ん坊の「ママ　ちゅき」という発言があげられました。この発言に対して母親は「ママも大好き」と返したそうですが、これは母親が子供の発言を能動的に「ママ　好き」と解釈した結果であるといえます。実際には「ママ　月」と伝えようとしたにもかかわらず、音があいまいであったため聞き手の潜在意識や文脈、背景知識等によって伝わる意味に影響が出ることがあるそうです。さらに一般的に言うと、能動的に聴くという事は、音声情報からのイメージ化、話し手と聴いた内容からの推測、背景知識スクリプト化で対応可能であることを含むとのことでした。また、聴くことのプロセスは生まれたときから始まっているそうです。一番初めは、吸う\_\_休む\_\_揺さぶるのリズミカルな繰り返しで、音声への返答　おうむ返し、そして応答を待つことなどのコミュニケーションの過程を経て、音を聴きながら能動的に聴くことに至るそうです。

さらに、脳科学的なアプローチでは左脳の言語を司る部位の説明がありました。一例としては、文法などの言語機能を司るブローカ野、語彙等のウェルニッケ野、言語使用の切り替えに関係のある尾状核などです。またここでは、ワーキングメモリに関するアクティビティや発話した内容から理解が伴うのかを確かめるための洋楽を用いたアクティビティの実践がありました。建内先生のご講義は、普段あまり触れることのない脳科学的視点から言語習得を見直すことで教育に関しても視野が広がるような貴重な時間となりました。



閉会後の懇親会にて活発な意見交換会が行われました。また、今年度も多くの方々に御参加頂きました。

---

次回の開催は 2016 年（予定）　HPを参照：　<http://azaleaenglish.com/chibatec/>

問い合わせ：　ちばてっく（JES 千葉支部）

〒263-8522　千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33　| 千葉大学教育学部英語科

E-mail: [chibatec@yahoo.co.jp](mailto:chibatec@yahoo.co.jp),

TEL：043-290-2678(本田勝久研究室)